ロスアラモス雑感

（原　研）　片　倉　純　一

1988年11月から1年間ロスアラモスに滞在することになった。ロスアラモス研究所は良く知られているように第2次世界大戦のマンハッタン計画で建設されたものである。11月中旬の夕刻，暗くなりかけた頃，岩膚の出た山合いの坂道を登って台地（メサ）の上にある町に着いた時には成程と思ったものである。

原爆の研究が始まりとはいえ，現在は宇宙科学から生命科学まで幅広い研究活動を実施している。もっとも軍事関係が主体になっていることは今でも変わらない。そのためかどうかは定かではないが，略語がやたらに多い。研究グループも通常は略語で，私が属しているのはT－2である。T－2のTはTheoretical Division のTである。

Divisionがいくつあるのか知らないが，ＥＳＳ，ＭＰ，ＨＳＲなどの略語を聞いただけでは何をやっている所が良く分からない。ＥＳＳなど最初聞いた時にはEnglish Study for Second Languageの略かと思い，「妙なDivisionがあるものだ，私のような英語のへたな外人に英語を教えてくれるのかな。それにしてもたいしたものだ」などと，呆れたり，感心したりしたのであるが，Engineering of Space Scienceのことらしく，宇宙工学であった。

T－2が属するT－Divisionには15のグループがあり，約200名の職員が素粒子から生命科学までの幅広い分野で主として理論的な仕事をしている。もっとも，素粒子の研究グループとエイズの研究をしているグループが，どうして同じDivisionにあるのか理解に苦しむ所ではある。T－2グループは別名Applied Nuclear Science グループで核理論やら核データの評価，原子炉の燃焼計算への応用などをやっているグループである。4月現在，グループの人員は16名でこの他私を含めた協力者が3名いる。

T－2の本隊はT－Buildingの2階にあるが，そこはSecurity Areaになっており，エスコートなしには立ち入り禁止である。このため，私は少し離れた所（歩いて3～4分）のトレーラーにＩＢＭ－ＰＣ（ＣＲＡＹと接続，端末機として使用）と共にいる。トレーラーと言っても冷暖房完備であるうえ，かなりがっちりしており移動可能な建物と言った方が良い。中は原研の1部屋の半分程の部屋が両端に2つと，その間にその倍程の部屋がある。現在は，私と経済をやっているらしいボブ君とで両端の部屋をそれぞれ使っている。予算の関係で新たに建物を建てるのが困難なためか，研究所には致る所にこの種のトレーラーが見られる。私のいる所でも10数軒のトレーラーが軒を並べており，一種のトレーラー村を形成している。特に不便を感じることもないが，計算機の出力を取る時が困る。部屋には，グラフィックプリンターもあり一応出力できるが，多量の出力や鮮明な図が欲しい場合には不向きである。計算機室は

Security Area 内にあり，グループ毎あるいはユーザー番号毎に棚に並べられてあるらしいが，立ち入り禁止なのでT－2グループの人に取ってもらい，T－Buildingの1階（ここは立ち入り可）あるいはT－10のオフィスへ取りに行く。T－10には，お世話になっているEngland氏の奥さんCarolさんが秘書として務めているうえ，Security Area 内でなく，トレーラーから近いため，ここにMail Box を作ってもらっている。

計算機相手の仕事ではあるが，1日中計算機とにらめっこしているのも精神衛生上宜しくないので，図書館へ行ったり，研究所のあちこちで開かれている。コロキュームを聞きに行ったりする。図書館は午後4時半までであるが，研究所のバッチがあれば何時でも入ることは出来る。鍵はかかっているが，バッチを読み取り機にかければ錠が外れるしかけになっている。ちなみに，バッチには青・黄・赤の三種類ある。信号と同じで青は通れ，黄は注意，赤は止れのようである。通常の職員は青，私のような外来は赤，黄は良く分からないが，作業等でSecurity Area 内に出入りする人達が付けるのであろうか。

コロキュームは，時々England氏が開催日や題目を教えてくれる他，研究所が毎週金曜日に発行しているNews Bulletinに記載されているので知る。このNews BulletinもCarolさんが調達してMail Boxに入れておいてくれるので助かる。ただ，コロキュームの場所が良く分からないで困る。研究所と言っても幾つかのTechnical Areaに分かれている上，立ち入り禁止の場所があったりで初めての時は容易に見つけられない。

先日も，P－Building（Physics Building）でコロキュームがあった時，聞きに行こうと思って場所を捜していると，同じように赤いバンチを付けた人が歩いていた。彼もコロキュームに行こうとしたが場所が分からないでいたようだ。二人であちこち捜し歩いてようやく見つけた。講演の予定時間より30分も遅れてしまった。不案内な者にとっては，同じ英語国民であっても場所を捜すのは難しいことであるらしい。

研究所内には科学博物館があり，研究所の歴史や現在の活動を展示物と共に紹介してある。戦争中の写真・新聞と伴に，広島・長崎へ落とされた原爆の模型も展示されている。話には聞いて知ってはいたものの，誇らしげに展示してあるのを見た時には，少々嫌な気がした。こういった物に対する受け取め方が米国人とではやはり違うのであろうと改めて考えさせられた。

模型を展示してあるといっても，実際に爆発実験をしたのはロスアラモス地域ではなく，ロスアラモスから南約200マイルのトリニティサイドである。車で5～6時間の所である。現在は米軍ミサイル基地の中にあり，年2回4月と10月に一般公開されることになっている。簡単に行ける距離ではないが，たまたま公開の日に付近を通る予定があったので回ってみた。ミサイル基地の入口には，迷彩服を差た兵士が手持ちぶさたに石に腰を下ろしていた。「トリニティサイトを見たいんだが」と聞くと，「ここから17マイル程行った所だが，途中，止って写真などを取ってはいけない。」と言われた。入口の近くには確かにミサイルを形どった標示板のある建物やレーダのドームらしきものが幾つか見られたが，すぐに何もない荒野になり，こん

な所を幾ら写真に取られても何ともないだろうにと思った。約20分程車を走らせると，トリニティサイトが見えてきた。驚いた事に，臨時の駐車場が見学者の車で一ぱいで，迷彩服の兵隊が無線機を片手に交通整理に当っていた。移動式のトイレも用意されていた他，トラックにジュースやTシャツ等を積んで商売をやっていた。途中，何台かの車と擦れ違ったが，近くの町からでも1時間以上はかかるうえ，記念碑があるぐらいで，何もないと聞いていたので，それ程人はいないだろうと思っていたのだ。4～500人はいたのではなかろうか。ツアーで来た人達もいたようだ。爆発地点は，その駐車場から200メートル程離れた金網で囲われた内にあり，1945年7月16日に世界で最初に発爆したと印された100フィートの塔が立っていた。　クレータは既に埋められている。また，プルトニュームコアを組み立てた建物が半分程土に埋っていた。一般公開の機会が少ないとは言え，途中何もない所をわざわざ数時間もかけて見に来る程のこともないような気がして，米国人にはよほど楽しみが無いのかと呆れたり，何でも楽しみにしてしまう才能があるのかと感心したり，人出の方が印象に残った。もっとも，自分もその1人であることに帰りの車の中で気が付いた。

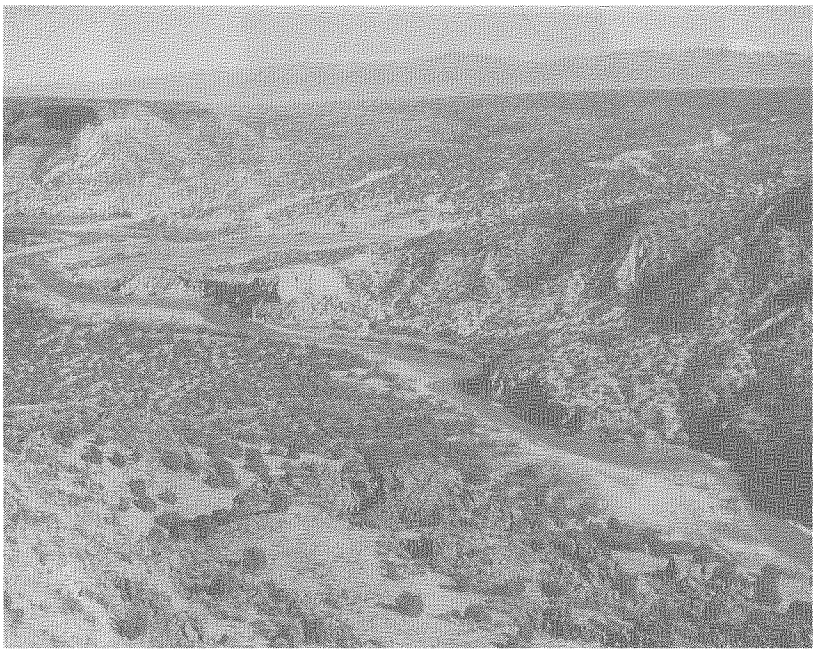

写真 1.　研究所の近くを流れているRio Grande 川

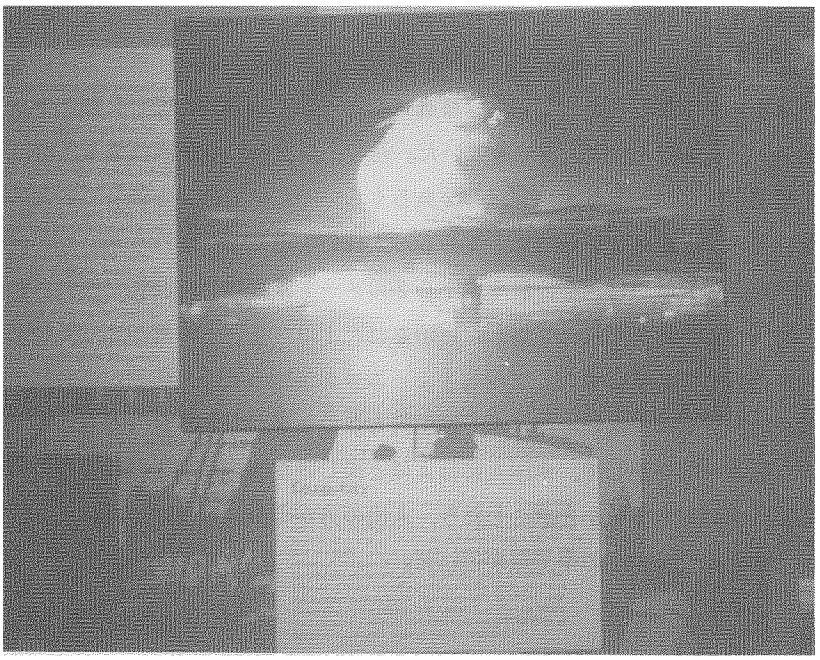

写真 2.　研究所内の科学博物館に展示してある写真

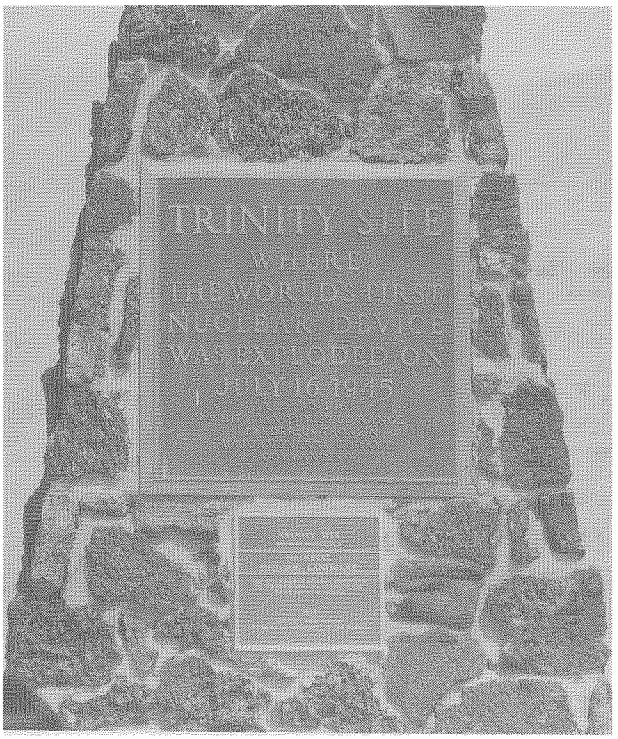

写真 3.　Trinity Site，世界で最初の原子核装置が 1945 年 7 月16日に爆発したと書いてある。